

東北地域
オーガニックビレッジ
取組事例集

令和6年7月

東北農政局 生産部 生産技術環境課

農林水産省

オーガニックビレッジとは

「オーガニックビレッジ」とは、有機農業の拡大に向けて、ほ場の団地化などの生産から学校給食での利用など消費まで一貫した取組を、農業者、事業者、地域内外の住民などの関係者が参画の下、地域ぐるみの取組を進める市町村のことです。

農林水産省では、令和3年度補正予算から、オーガニックビレッジの創出に向けて、みどりの食料システム戦略推進総合対策（有機農業産地づくり推進事業）により支援を行っています。

有機農業の取組が全国に広がるよう、こうした先進的なモデル地区を全国に創出し、横展開を図っていきます。

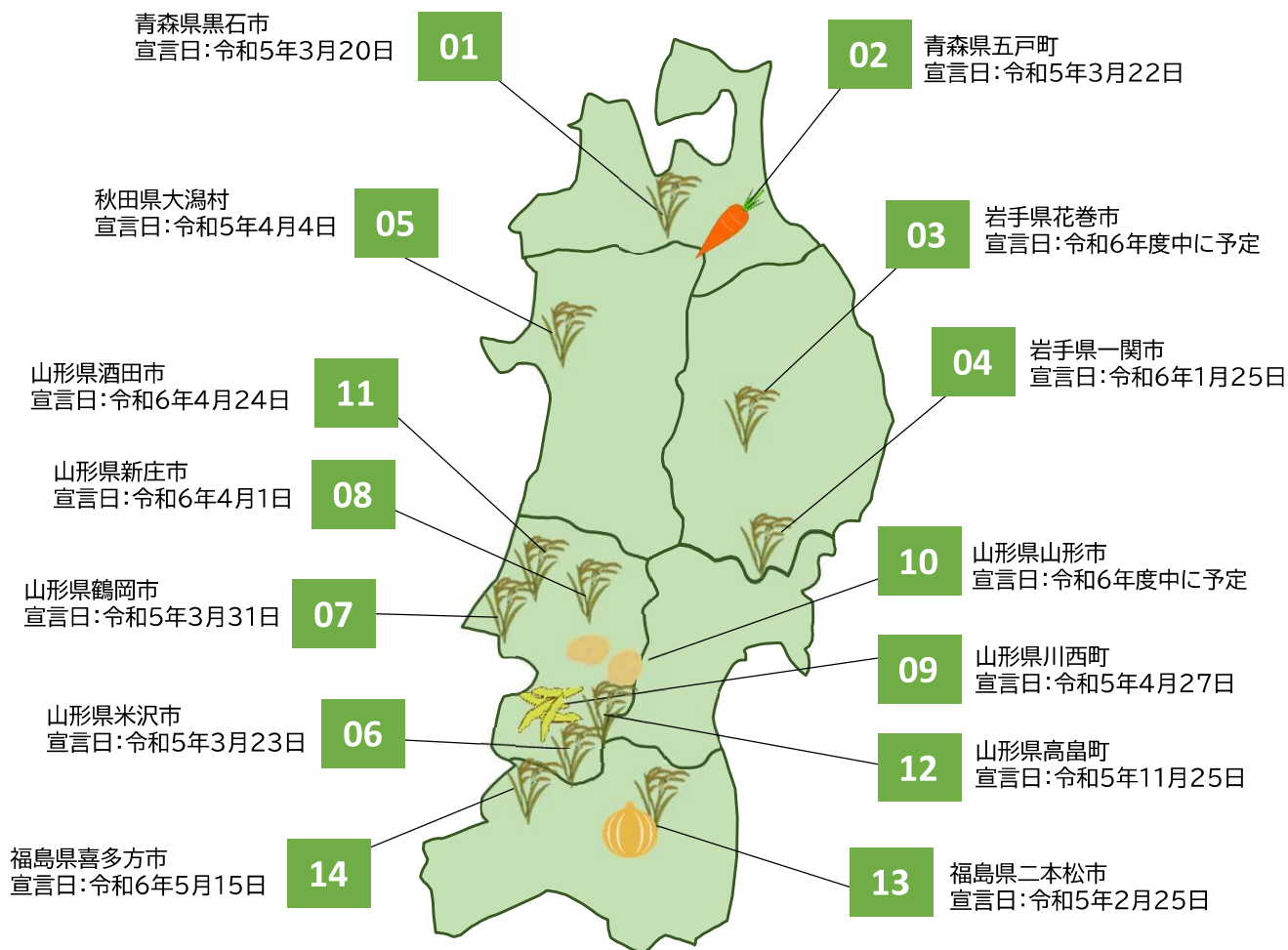


本誌の情報について

- 本誌はオーガニックビレッジに取り組まれている各市町村に令和5年度時点の取組内容のポイントをまとめていただき、それらを取りまとめた資料です。
- 先進的な取組事例を共有することで既に取り組まれている地域の情報共有を図るとともに、新しく取り組まれる地域の参考としていただくことを目的としています。
- 面積情報については、令和4年度に実施した「令和3年度における有機農業の推進状況調査（市町村対象）」に基づいて記載しているため、集計方法の違い等により、地域が設定した目標面積の現状値等と一致していない場合があります。
- 面積情報が非公開の事例は「-ha、-%、」と記載しています。
- 未掲載の事例についても、今後随時追加していく予定です。

東北地域オーガニックビレッジ取組事例集 目次

	都道府県	市町村	開始年度	キーワード	主な品目	ページ
01	青森県	黒石市	R4	スマート・学校給食・ブランド化	水稻	3
02	青森県	五戸町	R4	学校給食	野菜(にんじん等)	4
03	岩手県	花巻市	R5	スマート	水稻	5
04	岩手県	一関市	R5	学校給食	水稻	6
05	秋田県	大潟村	R4	スマート・学校給食	水稻	7
06	山形県	米沢市	R4	スマート・加工品開発・学校給食	水稻	8
07	山形県	鶴岡市	R4	人材育成・学校給食・ブランド化	水稻	9
08	山形県	新庄市	R4	加工品開発・学校給食	水稻	10
09	山形県	川西町	R4	団地化・加工品開発・学校給食	豆類(枝豆等)	11
10	山形県	山形市	R5	学校給食・資源循環・農業者団体連携	野菜(じゃがいも)	12
11	山形県	酒田市	R5	資源循環・農業者団体連携	水稻	13
12	山形県	高畠町	R5	学校給食	水稻	14
13	福島県	二本松市	R4	人材育成・学校給食	水稻・野菜(たまねぎ等)	15
14	福島県	喜多方市	R5	域外流通	水稻	16



R4 開始

01 黒石市（青森県）

～主な品目～
水稻

実施体制

黒石市、青森県、JA津軽みらい、くろいし有機農業推進協議会、民間農機具メーカー、青森県産業技術センター 等

面積情報

有機農業取組面積：8ha 耕地面積に占める割合：0.2%

（令和3年度時点）



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大（有機JAS認証面積） R4年度 4.6ha → R9年度 40 ha

有機農業に取り組む農業者数の増加 R4年度 1人 → R9年度 20人

学校給食での有機農産物の導入回数 R4年度 2回 → R9年度 全量化（米のみ）

2 有機農業を拡大していく上での課題

生産

生産技術の確立と生産者間での技術の共有

加工・流通

市外・県外への合理的な流通体制

消費

有機農産物の消費の拡大

拡大をはばむ雑草の紹介

・コナギ・オモダカ
（7月～9月）

【対策】間隔をあけた代掻きの2回実施。深水管理により抑制しつつ、水田除草機で除草を行い、初期段階での防除管理を行う。



▲コナギ（上）
オモダカ（下）

3 課題に対する取組のポイント・成果

有機農業拡大に伴う産地内での安定した消費の確保。一定の消費量を確保することが、生産者の安心にもつながり、規模拡大・販路拡大の取組を行うことが可能。併せて地産地消の取組も行うことができる。

【取組による定量的な成果】

有機米の給食導入回数及び量

R4年度：2回・208kg → R5年度：10回・975kg

ポイントとなる導入技術

作業時間、作業回数の省力化を目指しスマート機械の導入。除草作業の短縮が水稻の有機農業拡大には必須の要件となる。



▲水田用自動抑草ロボット
▼紙マルチ田植機



4 主な取組内容

①生産

- ・有機JAS認証機関を招請し、新規参入者向け講習会を開催
- ・水稻（市内ブランド品種）の栽培マニュアルの策定（今後実施予定）
- ・産業技術センター及び農機具メーカーと連携し、省力化と地域性に合わせた病虫害防除の方法を検証

②加工・流通

- ・特設ページをECサイトと連携し制作。
- ・多くの消費者に黒石市の産地の魅力や有機農業の取組を農産物と併せて紹介し、購買意欲の向上を図っている。

③消費

- ・商業施設と連携し、消費者が農産物を入手しやすいよう目立つ場所にブースを設置。
- ・また、特設ページをECサイトと連携し制作。消費者に産地の魅力なども紹介し、購買意欲の向上を図っている。



◀商業施設へブース設置



▲講習会



▲特設ページ

R4 開始

02 五戸町（青森県）

～主な品目～
野菜（にんじん 等）

実施体制

五戸町、町内農業者、畜産農家、物流・小売・加工業者 等

面積情報

—ha、—%



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大	R3年度 3 ha	→	R9年度 6 ha
有機農産物の販売数量の拡大	R3年度 13 t	→	R9年度 15 t
有機農業に取り組む農業者数の増加	R3年度 2 人	→	R9年度 5 人

2 有機農業を拡大していく上での課題

生産者から、有機農業に対する理解を得ることや栽培技術を習得することが困難であり、慣行農業から有機農業への転換が図られにくい。

拡大をはばむ雑草の紹介

- ・ 雑草全般
- 【対策】
緑肥による抑制



▲土づくり期間中における雑草の発生例

3 課題に対する取組のポイント・成果

有機農業技術向上研修会を有機農業に興味のある農業者に対して実施した。

有機農業視察研修を行い、先進地での取組内容を確認し、当町の取組みに取り入れた。

新規就農者等に対し、有機農業の栽培方法等指導を行える有機農業者の紹介を行った。

【取組による定量的な成果】

有機農業転換者数 R3：0 人 → R5：1 人

ポイントとなる導入技術

緑肥の導入による害虫や雑草の抑制

4 主な取組内容

①生産

- ・ 有機農業先進地への視察研修の実施
- ・ 土づくり、栽培方法等に関する技術講習会の開催（今後実施予定）
- ・ 有機農業への転換に係る講演会の開催（今後実施予定）
- ・ 有機農業推奨地域の選定（今後実施予定）
- ・ 独自商標の策定（今後実施予定）

②加工・流通

- ・ 有機農産物を利用した加工品の試作
- ・ 加工製造に係る設備導入支援の策定

③消費

- ・ 学校給食への導入協議を実施（R6導入予定）
- ・ オーガニックマルシェ等イベント支援の策定
- ・ SNSを活用したオーガニックビレッジ宣言及び取組みの周知



▲月1回の町内産農産物等で調理した給食（おんこちゃん給食）を有機栽培野菜を利用した給食へ



▲有機農業技術力向上研修会の開催

R5 開始

03 はなまき し 花巻市（岩手県）

～主な品目～
水稻

実施体制

花巻市、岩手県、JA花巻、農業者 ※R6.5.9現在

面積情報

有機農業取組面積：12ha 耕地面積に占める割合：0.1%

（令和3年度時点）



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大（水稻） R4年度 7.7ha → R10年度 15ha

有機農業に取り組む農業者数の増加 R4年度 12人 → R10年度 14人

2 有機農業を拡大していく上での課題

有機農産物のまとまった販路が確立されていないため、農業者がそれぞれ販路を開拓し販売を行っている。
 また、市内消費者の有機農産物への理解が低いため、消費拡大のため周知を図る必要がある。

拡大をはばむ雑草の紹介

雑草全般

【対策】

- ・ 除草には自作のチェーン除草機を使用している。
- ・ 田植え後、稲ごと土の表面をかき混ぜて雑草の芽を土から剥ぎ取る。

3 課題に対する取組のポイント・成果

市内消費者に対し有機農産物の理解に繋がる事業を実施し、消費拡大や農業者数の増加、栽培面積の拡大を図った。

【取組による定量的な成果】

有機農業に取り組む農業者数の増加、栽培面積の拡大

【取組による定量的な成果】

有機農業者数 R4：12人 → R5：14人

ポイントとなる導入技術

- ・ 資材（牡蠣殻）を投入し、土壌分析をもとに不足している成分を計算し散布する。
- ・ 米ぬかを田に撒いて、稲の生長に協力してくれる菌を増やす。

4 主な取組内容

①生産

- ・ 農業経営体の協力により、水田用自動抑草ロボットによる水田除草の省力化技術の実演会を開催。
- ・ 効果が確認できたことから、来年度、実演会に協力した農業経営体において水田用自動抑草ロボットを増台予定。

②加工・流通

- ・ 有機野菜を使用した加工商品や有機野菜の流通について、好きな時に手に取り身近に感じられるよう、販路や流通経路の拡大を図る。（今後実施予定）

③消費

- ・ 市民の有機農業に対する理解を深め、消費拡大に繋げる講演会を開催。
- ・ 有機野菜の販売イベントを開催し、有機野菜に対する理解の醸成を図る。



▲水田用自動抑草ロボット実演会の様子



▲有機野菜販売イベントに出店

R5 開始

04 いちのせきし 一関市（岩手県）

～主な品目～
水稻

実施体制

一関地方有機農業推進協議会（一関市、平泉町、大東町有機農産物等生産組合、有機農業者、産直組合、JAいわて平泉、一関市農業委員会、一関市教育委員会、県振興局・普及センター等）

面積情報

有機農業取組面積：111ha 耕地面積に占める割合：0.6 %

※環境保全型農業直接支払交付金の受給面積

（令和3年度時点）



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大 R4年度 12.42ha → R10年度 17 ha

※一関地方有機農業推進協議会で把握している数字。（現在は、有機農業者全員が加入しているわけではない）

有機農産物の販売数量の拡大 R4年度 26.7 t → R10年度 37 t

2 有機農業を拡大していく上での課題

地域での有機農産物の生産は、有機米が大半を占めているが、雑草対策に多大な労力を要するため、既存の生産者の規模拡大や新規参入の障壁となっており、有機栽培の拡大に向けて最も重要な課題となっている。

拡大をはばむ雑草の紹介

- ・ヒエ、シズイ、クログワイ（6～8月）
【対策】
- ・代掻き2回実施、成苗での遅植、中干しまでの深水管理、水田除草機での除草（活着後から3回実施）

3 課題に対する取組のポイント・成果

- 高能率水田用除草機による除草実演会
市長がオペレータとなって自ら操縦する実演会を開催し、除草作業の省力化をアピール。話題性を創出することで、マスコミを通じて農業者等に広く情報発信。
- 初心者のための技術指導会
遅植による雑草防除に適した苗づくりなどを技術指導。

【取組による定量的な成果（見込）】

参入に意欲的な農業者の把握

R4：実績なし→R5：2法人、1個人

ポイントとなる導入技術

- 高能率水田用除草機による除草作業の省力化

- ・ 地域で主流の歩行型除草機からの転換を進める。



▲実演会（操縦者：市長）

4 主な取組内容

①生産

- ・ 有機農業の拡大に向けた課題と対応策を検討する
「有機農業の振興に係る検討会」を開催
- ・ 高能率水田用除草機による省力化技術の実演会を開催
- ・ 地域内で発生する米ぬか等の有機質資源のペレット化の検討・試作
- ・ 有機JAS認証機関等と連携した新規参入者向け講習会を開催

②加工・流通

- ・ オーガニックフェスタ等のイベントでの有機農産物PRの実施
- ・ ゆかりのある蔵元と連携した地酒の商品化

③消費

- ・ 児童や保護者を対象とした田植え・稲刈り体験交流会の実施
- ・ 学校給食への有機米提供



▲有機農業の振興に係る検討会



▲児童と保護者との体験交流会

R4 開始

05 おおがたむら 大潟村（秋田県）

 ～主な品目～
 水稻

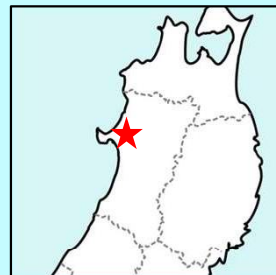
実施体制

大潟村、大潟村農業協同組合、大潟村カントリーエレベーター公社、秋田県立大学、大潟村有機農業推進協議会、集出荷団体 等

面積情報

有機農業取組面積：315ha 耕地面積に占める割合：2.7 %

（令和3年度時点）



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大（水稻） R4年度 243 ha → R9年度 255 ha

2 有機農業を拡大していく上での課題

- ・大潟村のほ場条件（重粘土質）に合った水田除草機の改修・開発。
- ・有機栽培に対する理解を深めてもらうため、食育活動などを通じた普及活動。

拡大をはばむ雑草の紹介

- ・コナギ（5月～7月）
【対策】
機械や手取り除草により対応。



▲水田用自動除草ロボットによる抑草作業

3 課題に対する取組のポイント・成果

- ・秋田県立大学と連携を図り、ほ場調査や実証試験を行い、その取組成果等を地域農業者に還元した。
- ・保育給食、学校給食へ有機米を提供し、安定的な消費先を確保するとともに、児童・生徒たちの健康や地域農業の学び、環境への関心といった取組みに繋がった。

【取組による定量的な成果】

給食導入回数 R4：12回 → R5：20回

ポイントとなる導入技術

- ・村では田畑輪換技術による雑草抑制を推奨している。他にも水田除草機が複数回ほ場に入れるような機械の改修・開発、直交除草技術の確立を目指した試験が行われており、将来的に除草作業の効率化や負担軽減に効果が出ることで期待されている。



▲水田除草機実証試験の様子

4 主な取組内容

①生産

- ・栽培方法等に関して、有機ほ場回りや現地研修会、講演会等を開催。

②加工・流通

- ・村内の飲食店と連携し、有機農産物を活用した新たな加工品やメニューの開発を行うことで、有機農産物のPR及びブランドの確立。（今後実施予定）

③消費

- ・村内イベント等を活用し、有機農産物のPRを実施。
- ・消費者が有機農産物を入手しやすいよう、村内産直センター等に有機農産物販売コーナーの設置を推進。（今後実施予定）
- ・有機農産物を使用した料理教室を行い、有機農産物の消費拡大を図る。



▲有機ほ場での技術研修会



▲村産有機大豆を使った「親子で豆腐づくり教室」の開催

R4開始

よねざわし
06 米沢市（山形県）～主な品目～
水稲

実施体制

有機農業実践者、市内加工業者・流通業者、市内飲食業者、消費者団体、山形おきたま農業協同組合、農機具メーカー、学術機関、米沢市 等

面積情報

有機農業取組面積：19ha 耕地面積に占める割合：0.4 %

（令和3年度時点）



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大（米・大豆・野菜） R3年度 12ha → R9年度 42ha

有機農産物の販売数量の拡大 R3年度 56.8t → R9年度 207t

有機農業に取り組む農業者数の増加 R3年度 13人 → R9年度 20人

2 有機農業を拡大していく上での課題

- ・既存農家では拡大面積に限界があり、新規栽培者の確保が必要。
- ・農家の経験や勘による栽培が中心であり、栽培技術が確立されにくい。
- ・価格が慣行農産物に比べて高い傾向にあるため、市場流通では扱いにくく、消費者等との直接販売といった個々で販路を開拓していく必要がある。

拡大をはばむ雑草の紹介

- ・ヒエ（5月～6月ごろ）

【対策】

深水管理により抑制しつつ水田除草機で除草を行う。

- ・コナギ（6月ごろ）

【対策】

鴨類や水田除草機を使いこまめな除草を行う。

3 課題に対する取組のポイント・成果

- ・栽培技術先進地視察の実施
- ・有機栽培実証圃場の設置
- ・全国商談会への出展
- ・道の駅米沢及び米沢愛菜館における有機農産物コーナーの設置
- ・学校給食への有機米の提供

【取組による定量的な成果】

有機面積拡大 R3：12ha → R5：15.9ha

ポイントとなる導入技術

- ・高能率水田除草機

主な負担となる除草作業の省力化を図る。今後農機具メーカーとも連携し、農業用機械の実演会等の実施も検討していく予定。



▲乗用水田除草機

4 主な取組内容

①生産

- ・栽培技術先進地視察の実施
- ・土づくりに関する基礎勉強会の開催（今後実施予定）
- ・有機栽培実証圃場の設置

②加工・流通

- ・全国商談会への出店
- ・有機農産物を使用した試作品の開発
- ・ECサイト研修会の開催
- ・個別商談会等の開催（今後実施予定）

③消費

- ・学校給食及び保育園給食への有機農産物の提供事業
- ・市内マルシェの開催及び出店
- ・有機農業者PR用webページの作成



▲栽培技術先進地視察



▲ECサイト研修会



▲市内マルシェの開催